

広島県中小企業団体中央会 2021年6月分情報連絡一覧表

※本調査は7月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する7月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

●食料品

中国醤油醸造協同組合

6月の出荷量は前月比6.3%増加、前年同月比17.2%増加となり、売上高は前月比3.6%増加、前年同月比14.1%増加となった。

広島県東部菓子商工業協同組合

今月の売上は前年同月比12%増加。原材料および資材、人件費をはじめ経費が高くなって収益を圧迫している。多くの人が職を失い、所得が減ることで、個人消費が下がる。ワクチン接種が進めば、経済もよくなる。

(繊維・同製品)

●繊維工業

広島アパテック協同組合

見通しは依然としてよくない。期待していた防護服等の生産がなかった。企業によっては生産調整を行っているところもある。

広島県織物構造改善工業組合

緊急事態宣言も解除され、徐々に動きが出てきた。但し、継続的に続くかどうか先は読めない。

(木材・木製品)

●木材・木製品

広島県木材協同組合連合会

<全国>

- ・令和3年5月の全国新設住宅着工戸数は70,178戸で前年同月比9.9%増加
- ・季節調整済年率換算値では875千戸で前月比0.9%減少
- ・利用関係別では、持家は22,887戸で前年同月比16.2%増加、貸家は25,074戸で同4.3%増加
- ・分譲住宅は21,426戸で前年同月比8.4%増加
- ・木造住宅は41,156戸で前年同月比15.5%増加
- ・住宅着工動向は、全体では前年同月比で3カ月連続の増加となり、コロナ禍を経て回復傾向にあるものの、リーマン・ショック後と同等の水準からの回復であり、19年比では約9%の減少であることから、ウッドショックの影響を含めて今後の動向を注視していく必要がある

<広島>

- ・5月の着工戸数は1,410戸で前年同月比6.1%増加
- ・内訳としては、持家は374戸で前年同月比9.0%増加、貸家は567戸で同5.8%増加、分譲は468戸で同4.0%増加と県全体の住宅着工動向は2ヶ月連続の増加となった
- ・地域別では広島市が720戸で前年同月比10.8%増加、東広島市は159戸で同31.4%増加、呉市は76戸で同9.4.9%増加、尾道市は53戸で同71.0%増加の一方、福山市は246戸で同12.5%減少、廿日市市は20戸で同4.8%減少であった

全体的に回復傾向にあるものの、全国同様コロナ禍での低水準からの回復であり、4月から本格化したウッドショックの影響で市況は依然混沌としている。木材製品の高騰や入手難から木造や木材離れを懸念する声や、業種業態で繁閑格差も顕著であるなど、先行き不透明であり、今後の需給動向をしっかり注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

製材用丸太は桧を中心に相場の上昇が止まらない。桧3m柱取り価格は5月末で25,000~26,000円/m³であったが、そこから一ヶ月足らずで36,000円/m³前後と10,000円程度の値上がりとなった。桧4m土台取りも29,000~34,000/m³とこちらも大幅に上昇した。高い値を付けた市場に丸太が集まる傾向が見られ、周辺市場の動向に売り手買い手の注意が集まっている。7月も引き続き桧を中心とした値上げ基調が続いている。

広島県内のプレカット工場については、6月前半は定時操業、6月後半はホワイトウッド管柱や間柱の入荷があった為1~2時間程度の残業を実施する業者が多かった。製品の不足感は解消されておらず、製品入荷に加工が左右される状況が続いている。

福山木材協同組合

ウッドショックの影響が出てきている。

(印刷)

出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

前月と変わらず厳しい状況が続いている。ワクチン接種率が高まることで、少しは明るい兆しが現れないかと期待する。少数ではあるが、新しいことに挑戦している印刷会社の記事を業界紙などで触れると勇気が湧く。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

先月から大きな変化はない。

半導体不足による自動車業界の減産はもう少し続きそうである。

下期からの回復を見込んで人員計画を立てるなか、技能実習生の受け入れがコロナ禍により進んでおらず、帰国予定者への期間延長も視野に入れている。

グローバル展開ではコンテナ不足による輸送費上昇も響いている。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

自動車関連は、半導体不足での減産が、6月から7月とますますの増加が予測される。日用品等は横ばい傾向である。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

R3年6月 2,638m³ (対前年比13.25%減)

R3年5月 2,495m³

R2年6月 3,041m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

軀鉄鋼協同組合連合会

新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くか判らず、先々が心配である。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、出荷や受注の増加により売上に反映されたことで前月比で20%増加、前年同月比では受注の増加が売上に反映され、15%増加であった。受注の回復は継続しており、内需はやや減少したが、外需の増加でカバーできている。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合 (電気機械器具)

今月の売上は稼働日数の増加や工作機械、半導体関係、通信機器関係などの活性化の影響で前月比5%増加、前年同月比5%増加となった。

コロナ禍による不透明要因はあるが、海外需要の回復で今後の受注増加が見込まれる。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具 (自動車)

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客 (マツダ) の業況 (生産台数) に比例している。

・6月の国内自動車販売台数は全需が365千台、前年同月比5.3%増加と9ヶ月連続の前年超え。登録車は前年同月比9.2%増加と4ヶ月連続で前年超え、軽自動車は同1.2%減少と9ヶ月振りの前年割れ、マツダ車は同8.4%減少と3ヶ月振りの前年割れとなった

・アメリカの5月度の全需は1,587千台で、前年同月比42.2%増加と連続で回復。マツダ車は更に前年同月比69.2%増加と、前年同月を連続して上回る結果となった

・欧州の5月の全需は1,257千台で、前年同月比77.1%増加と3ヶ月連続で前年を上回り、マツダ車は同101.1%増加と3ヶ月連続で前年同月を上回る結果となった

・中国の5月の全需は1,883千台で、前年同月比14.1%減少し、マツダ車は同35.6%減少と2ヶ月連続の前年割れとなった

・上記各地域の状況下、マツダ車の5月の海外販売合計は110千台、前年同月比42.2%増加と3ヶ月連続の前年超えとなった

・マツダ車の5月の輸出台数は、前年比421%増加と3ヶ月連続で前年越えとなった

・マツダ車の国内生産台数は、前年同月比235%増加と3ヶ月連続で前年越えとなった

●輸送用機械器具 (造船)

中国地区造船協議会

県内2500総トン以上の令和3年5月の船舶建造許可実績は1隻、30,000総トンであった (前月2隻10,300総

トン、前年同月3隻191,800総トン)。

なお、この1隻は国内船で、油槽船であった。

(一社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化は無い。

(卸売業)

●卸売業(総合)

協同組合広島総合卸センター

景況感にやや好転が見られるも、先行きは不透明。

実績反映は見られないが、コロナワクチン接種拡大による需要回復の期待が高まっている。

「雑貨」においては生活必需品、医薬品関連は堅調。ネット通販増加による段ボール需要に回復が見られる。

「資材」においては製造業、民間工事の復調を背景に、ばらつきはあるものの、全体的には好転。

「食品」においては「密」回避の消費者心理が根付き、飲食店向け需要は極めて厳しい見通し。

「繊維」においてはコロナ禍による外出機会減少、在宅増加を背景に、需要低迷、EC拡大も影響し、価格競争は厳しくなっている。

金融機関支援、持続化給付金による効果が薄れ始めている。今後の資金繰りに注意が必要である。

●卸売業(食料)

広島県東部食糧協同組合

食品製造の得意先は、大半の原材料が値上げとなり、価格転嫁の判断に苦労している。

●卸売業(電設資材)

広島県電設資材卸業協同組合

半導体ショックが深刻な問題となりつつある。

集合住宅用機器、住宅用インターホン、住宅火災警報器、ルームエアコン、パッケージエアコンの供給不足状態が出てきている。

また、今後ウッドショックの影響で中小工務店が厳しくなる状況で、電材業界への影響が危惧される。

●卸売業(家具)

リビズ株式会社

ワクチン接種なども進んでいるが、コロナ禍の先行き不透明感があり、今後の見通しは悪い。

今月末に1社が脱退する。

●卸売業(畳・敷物)

広島県藁製品商業協同組合

6月は、梅雨の影響で取扱量は伸びていない。産地では需要を見ながらゆるやかな製織となっている。また、6月末は一般的にい刈りシーズンに入る時期であるが、びんご畳表では、7月上旬から中旬にかけて刈り入れシーズンとなる。

販先では、需要の高まりもなく、コロナ禍から依然として個人消費には陰りあり。

新草の「い草の芳香」のする畳表が市場に出るのが待ち遠しく感じる。

(小売業)

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

中央市場における6月の取扱高は、水産部が前年同月比10%減少、青果部が同14%減少の低水準となるなど、飲食業の休業・時短が継続され、業務筋の好転が見込めない状況が続いている。

昨年のような「巣ごもり特需」が今年は見られず、中小零細な小売業者に売上不振になっている。

協同組合三次ショッピングセンター

緊急事態宣言によって客足が遠のく業種、休業した業種があったが、食品や衣料品が好調で全体としては売上が増加した。

イベント制限によって業績を伸ばすことは困難であり、現状維持がやっとである。

商圏内に競合店が進出する可能性があり先行きが不安である。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比28%増加となった。

AV商品同45%増加、白物商品同10%増加であり、商品別では、薄型テレビ同15%増加、DVD同55%増加、冷蔵庫同13%増加、洗濯機同4%増加、IHクッキングヒーター同9%減少、エコキュート同32%増加、エアコン同8%増加となった。

全般的に半導体等の部品不足で商品供給に難あり。一部の高級機種に品不足傾向が見られる。

依然、販売先行き不透明感は拭えない。

●その他の小売業(燃料)

広島県石油商業組合

6月に入り、仕入価格が毎週上昇し、小売価格への転嫁に苦労している。また、販売量が減少している中

での価格高騰で、資金繰りが心配である。

(商店街)

●商店街（各種商品小売業）

広島金座街商店街振興組合

緊急事態宣言が解除されたが、人出が戻らない。

呉本通商店街振興組合

緊急事態宣言の延長に伴い、これまで時短営業やテイクアウトで営業を継続していた飲食店の多くが休業した。その後、営業を開始した店の中には、これまでの定休日にも営業している店もある。

呉市でのワクチン接種に関して、65歳未満の住民に接種券の郵送が始まっており、これまでの接種会場に加えて、かかりつけ医での接種や職場接種の利用も徐々に拡大している。

(サービス業)

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比22.7%増加、前年比2.8増加。

車検場収入は、前月比20.2%増加、前年比3.8%増加。

重量税・登録印紙の売上は、前月比25.7%増加、前年比12.2%増加。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

大幅な受注減少であるが、一部ではオリンピック特需で稼働している。

鋼板や、各種資材の値上げがあり、厳しい状況が続きそうである。

●警備業

広島県警備業協同組合

先の見通しを予測するのが難しい。

●情報サービス

(一社) 広島県情報産業協会

今月は、前年同月比で売上・利益ともに減少したが、累計では前年度を維持できている。

今年度になって引き合いが一気に増えた。

世の中で、電子部品が不足しており、入手が困難となっている。

(建設業)

●工事業

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、6月度は前月比5.7%減少、前年同月比は27.7%減少、累計前年比34.5%減少と大幅に下落した。物件数が顕著に少なくなっている。

今年度は元々新築物件数が少なく、その上ウッドショックによる住宅建築への影響が出ている。

秋からの内装材料の値上げ等、コロナ禍に限らず不安要素が多く、今後の見通しは非常に厳しい。

福山地区電気工事業協同組合

6月分の工事受付件数は前月比15.4%減少、前年同月比16.3%減少となった。

第一四半期の増減の要因が不明。今後の状況が読めない。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が収束し、景気が上向くことを期待する。

(運輸業)

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

6月は5月より荷動きが悪く運賃も値下がりしつつある。また、引き続き、半導体不足により各自動車メーカーは減産しており影響を受けている。

燃料価格の上昇も続いていることから収益の悪化が心配される。

松永地区トラック事業協同組合

6月の売上高は、前年同月比では増加、前月比では大きな変化はなかった。

緊急事態宣言が解除され、荷動きが活発になるかと思ったが、関東、中部、関西方面からの返路貨物が減少しており、さらに運賃は値崩れしていて、中には安い運賃なので返路貨物は積まないで空車回送している業者もいる。

昨年、コロナ運賃と称して、かなり安価な運賃が出回っていたが、最近になり、また見かけるようになってきた。

また、軽油価格が毎月上昇しており、収益をかなり圧迫している。運賃値上げを荷主に要請したいところであるが、荷主もコロナ禍で売上がダウンして厳しいので、致し方なく我慢しているのが現状である。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進み、船員不足である。

若年船員が育たない。

運賃・用船料の改善が見られない。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比では、6月は地価調査業務等により、一般鑑定業務がやや減った分、売上高が減少した。前年同月比では、特に変化はなかった。

依然としてコロナ禍の不動産鑑定業界への影響は少ない。

流川・薬研堀歓楽街の飲食店業界は、自粛・時短要請の延長により依然として客足が少ない状況が続いている。客足回復には早期のワクチン接種が望まれる。

不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、低金利施策等の景況感もあり、地価は横ばいないしは上昇傾向にある。中心商業地では様子見から取引が減少している。